

●サポーター会議④ 2014/7/19 グループワークまとめ

A 地域福祉の活動をひろげます	
分類	課題
日進市のいいところをもっと広げよう！ ↑ ↓	各種の地域福祉団体がありますが、横のつながりを密にすることにより、より豊かな地域の福祉が成立するような気がするのですが。
	市内に良い例が多数ある。水平展開を。
	知らない方と会えてうれしかった。日中働いていると地域を意識できない。空き家を活用した事業の展開を。
	ほっとカフェのような施設（寄り合い場所）はできているが、利用者が限られた状態でないか。
情報共有ひろげるには	通信などで各戸に活動を知らせる。
	地域の方のニーズ把握。
	障害者の家族の方に少しでも多く出席して下さい。広報など、PRがとても大切です。
	地域に福祉の主旨とその必要性を周知する。 前から思っているが何も変わっていない。
若い世代につなぐには	大学が多い地域であるが学生たちの活動を上手く継続させていく仕組みがまだない。
	幼児の親、子供会と手を組めないか。
既存グループの課題	地域の中核組織の理解と参加を。
	自治会への加入者が少ない。加入を勧める方法を考えてください。
	地域の各種事業に集まる方々が一部の人達に限られており、その他大勢の方々は無関心だがこれでいいのか？
	自治会や老人クラブは期待できない。
	自治会・区・老人クラブの中で（子ども会含む）課題ごとのクラブをつくる。 地域によってはパパママ世代が地域に目が向かない、向きにくい人が多い（働き始めた人）。



解決案
市と社協で現存する事業の見学会を企画・開催する。
福祉課の方から市内の障害者の家族に許可を貰って会議に出席するようお願いしてください。
一人暮らしの老人、身寄りの無い人には福祉課の職員が調べてほしい。
「かわらばん」 Good!
地域によって災害が発生したとき一番先に現場に行く人は誰か。
広報、若者→SNS family→回覧、ネット、HP、高齢者の方→広報紙、回覧。
いい例がより広く知られるよう、広報、社協だより、通信で知らせよう考える。
幼児の親など、参加しやすいイベントを立案して、ハードルを下げた形で参加してもらい活動を知することを促す。
幼児の親が活動できるボリュームの内容まで活動の量を減らす。
（小学校区）家推と共にできる体制を構築する。
入り込みやすい雰囲気をつくってやる。
若い世代が自分たちの10年20年先、自分の親たちの10年20年先のことを思えるような世代交流イベントを増やす。
行政区長と老人会長の理解。
自助と共助を各行政区で。
区も自治会も今までの体質を変え、課題解決できる体制をつくっていく。
老人クラブはリニューアルして会員の親睦から社会貢献する組織に生まれ変わるようにする（社協と協力して）。
あとに続く方法、育てることに努力する。後進に道を譲ることをする。

●サポーター会議④ 2014/7/19 グループワークまとめ

B 地域福祉の活動を支えます		分類	課題
		子ども	子どもの遊び場。 遊ぶ際の見守り。
		福祉教育	学校福祉教育の充実。 ボランティア育成。 ボランティアの意義を知らない。
		高齢者	独居老人、高齢者世帯に対する支え。
		つながり	新しく地域に入ってきた方の地域参加・共同。入りやすくするための雰囲気づくり。 各団体の役員を集めた会議が必要（つなげるために）。 各団体の横のつながりが無い。 ひとつひとつの福祉活動グループは積極的だが横のつながりは？支え（行政）。 民間事業者とのかかわりが必要。 子ども会や自治会以外のコミュニティをつくる必要がある。
		資金	活動を始めるために資金が必要。
		情報提供	ひとつひとつの福祉活動グループは積極的に活動しているが、それらの認知度が低いこともある。 個人情報の取り扱いが難しい。 新たに地域組織に入ってくる人に対する情報。 継続させる為の知恵を教えて欲しい。 介護保険の改正に伴う、要支援者への支え（受け入れ先への支え）制度の情報提供。 市民がNPOなどの活動を把握する。
		人材	地縁組織（区・自治会）の役員が毎年変わってしまう。 自治会や区長に毎年活動を理解してもらえないといけない。 活動の担い手がない。 自治会役員等の高齢化。 活動を進めるためのキーパーソンを育てる。 地域活動する人の掘り起こし（相談役など）。 24H対応事業の人材の確保が難しい。 人材の情報が少ない。 若い世代に自治組織への参加の意識がない。
		拠点	活動の拠点が無い。 活動する場を貸してもらえない。
		すべて、共通	

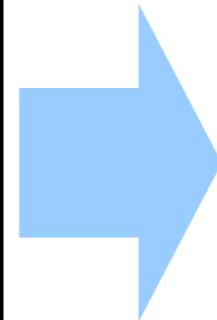


解決案
子どものうちからボランティア教育。 現場に触れ合う体験は必要。
社協がつながりをつくってほしい。
市民活動ファンドを設立。 アピールする場で寄付金を集めて資金を！
市民：自治組織：事業者の活動発表会で自分たちをアピールする場を！
広報（市）以外で情報を発信する。（インターネット、NPOの広報誌など）
学校と自治会組織に周知を徹底する。 各種イベントの場で啓発ブースなど。
にぎわい交流館と社協の人材情報の共有。 人材バンク。社協拡大。NPO制度。 社協を窓口とした民間事業所への雇用につながる仕組みがあると良い。 ボランティアの力はとても役に立つ。
空家、空き部屋バンク。
民間でできないことを社協でやって欲しい。

●サポーター会議④ 2014/7/19 グループワークまとめ

分類	課題
子ども	(共働きも多く)子どもたちの安全確保の為に事業強化が必要。
	親(特に母親)が活動するためには、子どもの保育・学童の充実が不可欠。
青少年育成支援	近くに若者サポートステーションも青少年センターもない。
	不登校ひきこもりをテーマにする活動がない。
	若者(18才~)への育成支援がない(行政を含め)。
高齢者	男の老人が集まる場が不足。
困りごとを抱える人	困りごとを抱えている人への支援が弱い。
	孤立する人をどうするか。
理解不足	行政側の地域福祉事業に対する住民の意識の向上を計る。
	意識向上の取り組みが少ない。
	PR不足。
	つなぎ役になるキーパーソンの育成。
	誰と誰をつなげれば上手くいくのか、よくみえない。だから、誰がつなげるのか、もできていない。
	つなぎ育てるためにはまず市民が日進の地域福祉の状況を知ることが大事。→広報・情報提供を。
	地域による課題の違いが大きく課題の共有がしづらい。
	市民活動団体がたくさんあるけどどんなことをやっているのかあまり知られていない。
	”社協”すら知らない人が多い。
	福祉関係団体の横のつながりが少ない。
	話を通してはくれるけど。
	役割分担が分からない。
	行政の部、課を超えた連携がとりやすい環境づくり。
自治会と区長との福祉事業等の交流を進める。	
交通手段	買い物の場が近くにない。
	歩道がない。
	学校と通勤への送迎を生涯福祉サービスでできるように、またはそれに変わるものをつくる。
	くるりんバスの充実。
	くるりんバスが一方通行、東・相の山など、必要な場所が不便。
	本数が少ない→利用者が増えない。本数多くすればもっと利用者増える。
	くるりんバスは一時間一本だと実際は使えない。
	福祉送迎の手続きの簡易化や個人参入の検討(移動手段の改善)。
タクシーチケットの予算と需給の兼ねあい。	
その他	車のシェアができるとういのがいい。
	知らせるやり方がわからん。
	サラリーマン中年男性がなかなか地域に入っていけない。
	市民が一步出るのが難しい。
	チラシを出していれば来るだろう、わかるだろうという意識を変える。(おやじの会)にもなかなか入っていけない。
	サラリーマン疲れてる。自分の問題に置き換えれば(福祉なんて!)。
	参加する意欲に個人差がある。
趣味趣向によってこぼれる情報というのがある。	

C 地域福祉の活動をつなぎ、大きな力に育てます



解決案
子どもの一人歩きに対する仕組み、見守り、ボランティア強化。
企業→働きやすい職場づくり。子ども受け入れ→ナイトタイムなど子どもの安心安全な場づくり。
まずは行政でできることをやる。
地域にある大学との連携による相談場所の設置(臨床心理学科など?)。
民生委員さん主任児童委員さんがつなぐ人になる。キーパーソン。
お互いを知り立場の違いを認める。
地区社協はどうなった?(活動計画P15)
地域サポーター制度の検討はどうなった?(活動計画P28)
既存の組織の活性化か、積極的な人の力を活かすか?
お酒がきっかけでも良いじゃん。
地域福祉コーディネーター役が必要。
市はやろうとする計画を明確にする→その上で事業者、市民がやるべきことを行う。
区長制度が本当に必要なのか?
自治会の方が上手くいく。
行政側が地域福祉活動の必要をもっとPRする。
市民の意識も変えていかないと。
行政が待ちの姿勢で仕事をするのではなく積極的問題をみつけ提案解決に取り組む。
市は「地域福祉計画」の内容を分かりやすく市民に伝えるべき。このとき市民も力をあわせて広く、知らせることを一緒に。
行政ができることとできないことを具体的に市民に示し、市民に協力を求める。
くるりんバスだけでなく福祉有償車両を高齢者障害者こどもに使いやすいものを。
市が予算をつけ交通行政に力を入れる。
エコモビ推進活動の一環としてくるりんバスを増発(行政)市民は自家用車を控える(市民)。
予算の兼ねあいもあるけれど市民の足を行政が確保、または支援してあげて。
ひとりひとりの関わり方の負担をかけない方法の確立。
リーダーはやっぱり要る。当番制にした途端に上手くいかなくなる。